

東北海区沿岸水温予報(2013年)

海域	経過 (9~11月)	現況(11月下旬~ 12月上旬)	見通し (12~2月)	見通しの背景	特異現象 (漁獲況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	●定置水温 9月から10月上旬はやや高め~かなり高めに推移。その後11月中旬には一時やや低めの時期もあったが、おむね年間並みを中心に推移。 ●定線観測 太平洋沖合定線観測(8/27-31)では津軽暖流の0m層、50m層、100m層共かなり高め。 日本海沖合定線観測(9/1-3、9/27-28、10/28-30)では対馬暖流の0m層は各回ともやや高め、50m層と100m層は9月にはやや高めであったが、その後は11月の100m層でかなり低めであったほかは年間並み。	●定置水温 やや高めから年間並みで経過した。 ●定線観測 太平洋沖合定線観測(12/3-5)では津軽暖流の0m層ではかなり高め、50m層と100m層ではやや高め。 日本海沿岸定線観測(11/25-26)では対馬暖流の0m層でやや高め、50m層と100m層では年間並み。	年間並みからやや高めと予測	12月(11/25-26)の日本海沿岸定線観測で、対馬暖流の勢力は弱勢と判断されたほか、水温は年間並みから0m層でやや高めだったことから、今後、その影響が太平洋沿岸に及ぶと予測。	特になし
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	【9月】 表面水温は、距岸10海里内は尾崎沖合5~10海里が「年間並」のほかは「やや高い」。距岸10海里以東はトドヶ崎から樺島沖合40~50海里が「やや高い」のほかは概ね「年間並み」。 100m深水温は、距岸10海里内は県央部が「やや低い」と「極めて低い」のほかは概ね「年間並み」。距岸10海里以東は、黒崎から尾崎沖合50海里、樺島沖合20海里および40~50海里付近が「年間並み」のほかは「やや低い」。 【10月】 表面水温は、距岸10海里内は全域「やや高い」。距岸10海里以東は、黒崎沖合50海里からトドヶ崎沖合30~50海里が「やや高い」、樺島沖合20海里付近が「やや低い」のほかは概ね年間並み。 100m深水温は、距岸10海里内はトドヶ崎沖合10海里付近が「やや高い」のほかは「年間並み」。距岸10海里以東は県央部30海里以東が「やや高い」~「高い」、黒崎沖合20~50海里からトドヶ崎沖合20海里、尾崎沖合30海里から樺島沖合30~40にかなり「やや低い」~「極めて低い」。 【11月】 表面水温は、距岸10海里内は黒崎沖合が「やや高い」のほかは「年間並」。距岸10海里以東は、尾崎沖合20海里から樺島沖合40海里以内が「年間並み」のほかは概ね「やや高い」。 100m深水温は、距岸10海里内は県央部が「やや低い」のほかは「年間並み」。距岸10海里以東は、黒崎沖合20~50海里からトドヶ崎沖合40~50海里および尾崎沖合30~50海里から樺島沖合50海里が「やや高い」~「極めて高い」。	表面水温は、距岸10海里内は概ね全域「年間並み」。距岸10海里以東は黒崎沖合50海里付近および樺島沖合20~50海里が「やや高い」のほかは「年間並み」。 100m深水温は、距岸10海里内は黒崎沖合10海里付近が「極めて低い」、トドヶ崎沖合10海里付近が「やや低い」、県中南部以南が「やや高い」。距岸10海里以東は、樺島沖20~50海里が「やや高い」~「高い」のほかは「年間並み」。	全域「年間並」。	統計的予測モデルによる。	特になし
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	<9月上、中旬> 『本県の沿岸表面水温は年間並み、100m深では142°E以東で年間よりも低くなっていた。』 【表面水温】 本県沿岸から沖合の表面水温は20~24℃台となっており、概ね年間並みとなっていた。 【100m深水温】 100m深水温については3~16℃台となっており、142°E以東では年間よりも1~7℃低くなっていた。特に38°Nラインでは142°30'、142°50'E付近に3℃台、38°50'Nラインでは142°10'E付近に4℃台の冷水がみられた。 <10月下旬> 『本県の沿岸から沖合の表面水温は年間並み、100m深水温は概ね低めとなっていた。』 【表面水温】 本県沿岸から沖合の表面水温は、17~18℃台となっており、年間並みとなっていた。 【100m深水温】 100m深水温については7~14℃台となっており、概ね年間よりも0~5℃程度低めとなっていた。 <11月上、中旬> 『本県の沿岸から沖合の表面水温は年間並み、100m深水温は2~5℃低くなっていた。』 【表面水温】 本県沿岸から沖合の表面水温は15~18℃台となっ	<12月上旬> 『表面水温は142°30'Eより西側で年間並み~低め、東側で高め、100m深では全体的に1~4℃高くなっていた。』 【表面水温】 本県沿岸海域(142°30'E以西)の表面水温は12~15℃台となり、年間並みもしくは1~2℃低くなっていた。一方、沖合海域(142°30'E以東)の表面水温は14~16℃台となり、年間より1~2℃高くなっていた。 【100m深水温】 100m深水温については13~16℃台となっており、年間より1~4℃高く、38°N、38°30'Nラインの沖合海域(142°30'E以東)では暖水渦により年間よりも3~4℃高くなっていた。	<1月> 38°50'Nライン(気仙沼沖)はやや高めで推移する。 38°30'Nライン(雄勝沖)の142°30'E以西はやや高め、142°50'E以東は高めで推移する。 38°Nライン(亶理沖)の141°50'Nはやや高く、142°10'E以東は高めで推移する。 <2月> 38°50'Nライン(気仙沼沖)は年間並みに推移する。 38°30'Nライン(雄勝沖)は年間並みに推移する。 38°Nライン(亶理沖)の142°30'N以西は年間並み、142°50'E以東はやや高めで推移する。	水温経験的予測システムの主成分スコア自己回帰モデルによる予測	ヒラメ好漁、サンマ不漁、スルメイカ、沿岸イカ釣り不漁、沖合底曳好漁、秋サケ好漁

	おり、概ね平年並みとなっていた。 【100m深水温】 100m深水温は 11～14℃台となっており、概ね平年よりも2～5℃程度低めとなっていた。				
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	表層では7～9、11月は平年並、10月はやや低めで推移した。100m深では7、9月はやや低め、8、10～11月は平年並で推移した。	12月の観測は一部定線(鶴ノ尾崎、富岡)について実施しているが、表層、100m深とも平年並であった。	「平年並み」～「やや低め」で推移する	11月に海洋観測で得た水温を用い、本県海域(沿岸～50海里沖)を3つの海域に分け、1月についての自己回帰分析を行った結果、沿岸海域、沖合南部が「平年並」、沖合北部が「やや低め」となった。一方、気象庁の1カ月予報(12/11～1/10)において、親潮先端は41N、144.5E付近及び40N、147E、面積は平年並から平年より大きく推移し、本州東方の海面水温は平年並と予測されている。また、FRA-ROMSによる2月上旬までの本県沿岸における予報では、黒潮系暖水、親潮系冷水の強い波及はないことが示唆されている。気象庁、FRA-ROMSによる予測からは、今後1～2ヶ月後は平年並みに推移すると思われる。これに自己回帰分析の結果を合わせ、平年並～やや低めと予測した	10月8日に相馬海域での中層トロール調査(網口高さ約5m×網口幅約5m)10分曳で、ウキヅノガイが大量入網(2.6kg)した。11月に、船びき網の漁獲物(放射性物質モニタリング)にウルメイワシが散見された(被鱗体長4.3～10.5cm)。
常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	9月上旬は、表層では全域で「平年並」、下層(100m深)では会瀬定線の東経141°30'以西、大洗定線の東経141°以西で「高め基調(+1～+5℃)」、冷水が南下した影響により両定線の沖合域で「低め基調(-4～-1℃)」となった。潮流の特徴として、沿岸域(東経141°以西)で最大1.5ノット、沖合域で最大2.2ノットの逆潮(南下流)が観測され、全域で逆潮が強い傾向であった。 10月中旬は、黒潮流路となる南部沖合では「高め基調」、黒潮流路を除いたほぼ全域において、表層は「平年並」、下層(100m深)は「低め基調」となった。9月と同様、潮流は逆潮が強い傾向であった(最大1.4ノット)。 11月中旬は、暖水波及の影響により、表層・下層ともほぼ全域で「高め基調(+1～+5℃)」となった。10月までの下層の冷水域は解消された。	12月上旬は、暖水波及の影響が11月よりも弱まり、表層は「平年並～高め」、下層は「平年並」であった。	「平年並～やや高め」で推移する。但し、親潮系冷水や黒潮系暖水の急激な波及時には大きく変化する。	①12月海洋観測100m深水温を用いた自己回帰モデルによる解析では、2014年1～3月の各月とも「平年並」となる予測結果であった。また、類似年モデルによる同様の解析では、1月が「平年並～やや高め」、2月・3月が「高め基調」となる予測結果であった。 ②気象庁12月10日発表によれば、今後1ヶ月間の親潮の面積は平年並～大きめで推移するとみられ、親潮第一分枝の先端は北緯41°・東経144°30'付近に位置するとみられている。これらのことから、冷水の勢力は比較的強いと考えられるが、親潮第一分枝の先端は東北海域の北方沖合に存在しており、短期間で本県海域沿岸にまで影響を与える可能性は低いとみられる	①8月上旬に県中部の小型船(船びき網)によりケショウフグが漁獲された。ケショウフグは沖繩以南が主分布域とされ、県内では初めての採捕報告事例となった。 ②11月中旬に底びき網でハシキンメ、11月下旬に船びき網でコンゴウフグが漁獲された。いずれの魚種も当県より南方が主分布域である。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4℃～	+4.0℃～	+6.0℃～	+2.4℃～	+4.0℃～	+4.0℃～
高い(7.5%)	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	4.0～+5.9℃	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+2.5～+3.9℃
やや高い(20%)	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	1.5～+3.9℃	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.0～+2.4℃
平年並(40%)	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	1.4～-1.4℃	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+0.9～-0.9℃
やや低い(20%)	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	1.5～-3.9℃	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.0～-2.4℃
低い(7.5%)	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	4.0～-5.9℃	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-2.5～-3.9℃
極めて低い(2.5%)	-2.4℃～	-4.0℃～	-6.0℃～	-2.4℃～	-4.0℃～	-4.0℃～